

「すべてを神様に捧げていますから」

本田 眞樹子

5・6年前のことでした。安土セミナーヨで受付をしていた時に、相方が神父様とわからず募金箱を出してしまいました。その時のお答えが先の言葉でした。

一か月に一度、第4主日に、唐崎教会でミサをたてて下さるようになり・・・神父様からの注文がちよくちよくありました。ミサの準備で「ぶどう酒が足りない！」他は忘れましたが、この一点は忘れることはありません。

「典礼を最も理解されている神父様だから」と他の神父様からお言葉をいただき、私たちも学ぶべき箇所が多々あったように思います。

コロナ禍では仲間は勿論、神父様ともズームでお顔を、お声を伺うだけの2年余りでした。そして、ようやく教会の門が開けられ、神父様方の巡回が再開されました。

第4日曜日、安曇川教会に向かわれる前にお茶をお出ししました。カルメル会のシスター達と話される場となり、信徒との語らいの時間もてました。お相手のない時は、私ご自分のお体の手術のこと、肥満させないために胃を切除されたこととか、妹さんの日常の不満が帰国

すると爆発するとか。(これは私の日常について話していた時) 聖書の勉強会でジェンダーの話になった事があり、神父様のお考えをお聞きすることもありました。ミサのお説教だけで知ることがなかった日常の神父様のお考えの一面を知りました。

三重への異動が決まって、唐崎での最終日の事でした。大津教会では黙想会があり、いつもより30分以上早く到着されました。これまで黙想会には2人の神父様が居てくださり、赦しの秘跡を行って下さっていたのでおたずねしました。

「誰も、何も言いませんでしたよ。」

「エミリオ神父様 すごい人気です。」

少年のように悪戯つぽく、そして少し淋し気に感じたのは私の思い過ごしでしょうか。

フェリペ神父様 ありがとうございます。

お話くださった 万の一程しか覚えていませんが、お人柄と人間味あふれるおことばを大切にしていきたいです。お元気で、祈りとともに



ありがとうございました!

お元気で、祈りとともに

